

- (i) 英国
- (ii) イスラエル
- (iii) スペイン

また各 GSDPC は上記の観測範囲について、地上基準データとの較差/検証のために特別な期間を設定し、対応する領域の静止衛星の赤外線温度のデータセットをオリジナルの解像度(ピクセル単位)で、ヒストグラムデータと別に作成/提供することになっている。

但し GMS については、気象衛星センターが既に作成/累積している0.25度の緯度/経度単位のヒストグラムデータで代替することを提案した。

米国フロリダ州のケネディ宇宙センターにある基礎校正検証施設(BCVF²³)は、デジタル化レーダ及び高密度の各種雨量計の観測網があり、地理的にも海の近くに位置していることから降水測定機器及び方法の開発/評価のためのワールドセンターとしての役割を担うことになった。

ABBREVIATION

- ¹ The Global Precipitation Climatology Project
- ² Joint Scientific Committee for WCRP

- ³ Committee on Climatic Changes and Ocean
- ⁴ Tropical Ocean and Global Atmosphere Programme
- ⁵ World Climate Research Programme
- ⁶ International Council of Scientific Unions
- ⁷ Geostationary Satellite Data Processing Centec
- ⁸ Geostationary Satellite Precipitation Data Centec
- ⁹ National Ocean and Atmospheric Administration
- ¹⁰ Climate Analysis Center
- ¹¹ Polar Satellite Data Processing Centec
- ¹² Defence Meteorological Satellite Project
- ¹³ Special Sensor Microwave Imager
- ¹⁴ National Environmental Satellite, Data and Informaion Service
- ¹⁵ Polar Satellite Precipitation Data Center
- ¹⁶ National Aeronautics and Space Administration
- ¹⁷ Goddard Space Flight Center
- ¹⁸ Grobal Precipitation Climatology Centec
- ¹⁹ Surface Reference Data Centec
- ²⁰ National Climatic Data Center
- ²¹ Computer Compatible Tape
- ²² Outgoing Longwave Radiation
- ²³ Basic Calibration and Validation Facility

第24期 第2回 評議員会報告

日時 昭和63年1月18日(月) 18:00~20:00

場所 東京都千代田区大手町 1-4-1 竹橋会館

出席者

評議員: 菊池, 立平, 駒林, 増沢, 内田, 松本, 片山, 岸保

名誉会員: 和達, 畠山, 吉武, 高橋

日本学会議会員: 澤田

常任理事: 山元, 関口, 竹内, 浅井, 河村, 松野, 荒川, 重原, 能登, 土屋, 中村, 山川(弘)

理事: 岡村, 山川(宜)

監事: 浜田

来賓: 浅田, 河村(謙)

事務局: 加藤, 片桐, 伊藤

内容

1. 山元理事長から学会運営について、次の項目に重点をおいて全般的な説明をした。

- (1) 会員の動向について
- (2) 財政状況について
- (3) 堀内基金奨励賞について
- (4) 気象集誌特別号の刊行について
- (5) インド気象学会主催の国際会議について
- (6) IAMAP 総会の招致について
- (7) 国際学術交流について
- (8) 気象界の動向について
 - a. 気候変動の国際協同研究計画(WCRP)
 - b. 大気と地表面の相互作用の日中協同研究計画
2. 各理事は自己紹介を行ったあと、担当業務についてそれぞれ説明を行った。
3. 評議員からの意見、要望

支部活動を活発に行い、気象庁職員も積極的に参加できるようにしてほしい。